

研究テーマ	用具や材料を活用しながら、自分の思いを工夫して表現するための工夫 ～第2学年 「うつしてみると(紙版画)」の実践を通して～
-------	--

ひたちなか市立枝川小学校 教諭 阿部 倫子

I 研究テーマについて

平成29年度「茨城県学校教育指導方針」の図画工作の努力事項として、「感じ取る力、自分なりのイメージをもつ力の育成」が掲げられている。

今回、研究しようと思った版画学習であるが、そもそも版画は、誰かに教えられて始めた表現活動でもなく児童自らの根源的な欲求から始まった、児童の思いを写す造形活動である。幼児が、どろんこの手のひらをぺたぺたといったるところに押しつけて遊ぶことも同じような思いであると言える。そして、この「写し、表現する喜びを味わわせること」こそが、図画工作科における版画学習の基本となるのではないかと考える。

低学年の児童は、作品を見たりつくったりする時に、思ったことを声に出して伝えることが多い。そこで身の回りの作品を互いに鑑賞し、児童同士が自分の気持ちや印象、体験などを自由に交流できるような場を設定し、学習指導を進めて、感じ取る力が強まるようにさせたい。さらに、互いの気付きについて交流し合った後に、その見方や感じ方が児童の今後の造形活動に発揮していくよう、ワークシートにメモできるようにしたい。一人一人の児童が自信を持って取り組めるよう、良いところを称賛したり、製作に戸惑っているときにはその解決法を一緒に考えたりすることで、つくることへの意欲を高められるような活動になるようにしていきたいと考えている。

II 研究の実際

1 題材名 うつしてみると

2 題材の目標

紙版画やローラー版画を用いて、版遊びを楽しみ、自分の感じたことを話したり、写すことを試したりしながら、自分の思いを紙にあらわす。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、少人数だが一人一人が自分の思いを生かして作品を仕上げることができる。1学期に、身の回りの材料を使ってスタンプ遊びを経験したが、家庭でも似たような遊びは経験しており、スタンプに使う材料を使う際には、慣れた手つきで楽しみながら活動に取り組む様子が見られた。今回は紙版画用の黒インクやローラーを使って活動するが、それらの道具を使うのは初めての経験となる。また、紙を切って重ねたりする活動も、意識調査によると、経験している子は少ないようである。鑑賞においては、友達の作品を見て良かった点を伝えることはしていたが、自分の作品について、自分の思いを込めながら誰かに伝えるような経験はしたことがない。

児童の意識調査(2学年 4名 1月11日実施)

- | | | |
|--------------------------------|-------|--------|
| 1 スタンプ遊びは好きですか？ | はい 4名 | いいえ 0名 |
| 2 紙を切ったり重ねたりしたことがありますか？ | はい 1名 | いいえ 3名 |
| 3 線の通りにハサミで切ることができますか？ | はい 4名 | いいえ 0名 |
| 4 自分の作品を友達に見せながら、説明することができますか？ | はい 2名 | いいえ 2名 |

(2) 題材観

本題材は、自分の楽しい経験を想像しながら、画用紙を切ったり組み合わせたりしながら、それを紙版画に表す題材である。材質が紙のため、線に沿ってハサミで切ったり、のりで貼ったりすることは容易に作成することができる。そのため、自分のイメージに合うように紙を貼り重ねたり、何度も刷り直したりすることで、紙版画の良さやできたよろこびを味わうことができるのではないかと考える。

(3) 指導観

これまで子ども達は、身の回りの材料を使ってスタンプ遊びは経験しているが、インクやローラーを使った紙版画の表現は今回が初めての経験となる。形を重ねて組み合わせたり、インクをつけて刷ったりする活動は、児童にとって刺激的な学習になるのではないかと思う。そこで、初めて使う用具については、適切な使い方を身につけさせることができるようにさせたい。また、鑑賞の時間も導入し、友達の作品の良さを伝えたり、またその良さを自分の作品にも生かせたりする中で自分の作品に思いを込めて仕上げ、いろいろな気付きを持たせられるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
形を組み合わせながら版に表す楽しさを味わおうとしている。	形や紙の材質を変えたときの様子の違いを比べながら、組み合わせを考えることができる。	自分の思いを効果的に表現するためのいくつかの方法を見つけ、試しながら表すことができる。	自分の作品や友達の作品を見て、特徴や自分が感じたことを言葉で説明することができます。

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ②	・教科書の作品や「紙版画のつくり方」を参考にして、顔の形をつくる。	・紙を切ったり重ねたりして版をつくり、紙版に表すことを探している。 圖 【発表】
	・どのように紙版に表すか考え、基になる版をつくり、細かな部分を貼り重ねたりする。	・紙版の表し方を知り、どのように表すか楽しみながら考えている。 圖 【活動の様子】
第2次 ②	・版を刷る。	・表したいことに合わせて、版のつくり方を工夫している。 圖 【活動の様子】
	・友達と作品を見せ合い、工夫した点を話し合う。	・できた作品を見せ合い、自分や友達の作品の面白さに気付いている。 圖 【発表・ワークシート】

6 指導の実際

- ①ためす→ 導入学習として、学校のいろいろな場所でこすりだしの活動を行った。
凹凸や材質によって、表れ方が異なることを実感した。



でこぼこした丸がかけたよ。



小さな点々が出てきたよ。



フワフワした線がかけたよ。

細い毛糸でまっすぐに貼る児童



太い毛糸で丸めながら貼る児童



- ②表現する→ 画用紙や厚紙、毛糸など、素材を生かして自分なりに考えて作品を仕上げる。

(紙版画作成に当たって)

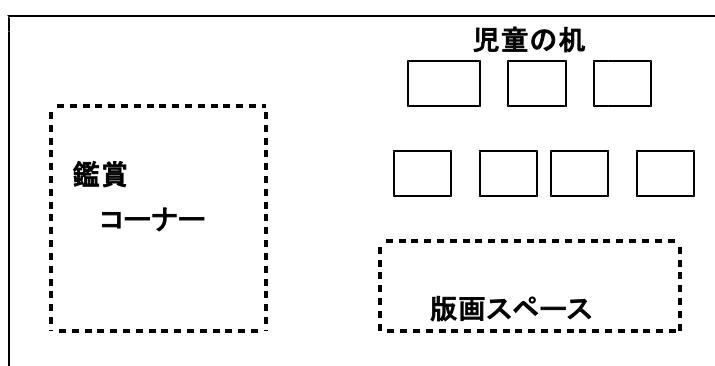
児童にとって、重ねて顔を作ることは初めての経験である。そこで顔のパーツがよく分かるよう色画用紙を使用した。人間の顔を作っている感覚を大切にしたかったので、なるべく実際の色に似たような配色でつくれるようにした。また、ステイックのりを使ってパーツを貼ろうとしていた子がいたが、刷るときにはがれてしまう可能性があるので、液状ののりを使用するようにさせた。

髪の毛は画用紙の他に毛糸を用意したところ、全員が毛糸を使って髪の毛を作っていた。毛糸は太さの違う物を用意した。毛糸は、液状ののりでなく、工作ボンドで貼るようにした。



→

③伝え合う → 刷った作品を見て、互いに感じたことを伝え合う場の設定をする。



児童の机・・・紙を重ね貼りする場

版画スペース・・・インクやローラーを使う場

鑑賞コーナー・・・できた作品を互いに見せ合う場

(鑑賞コーナー)

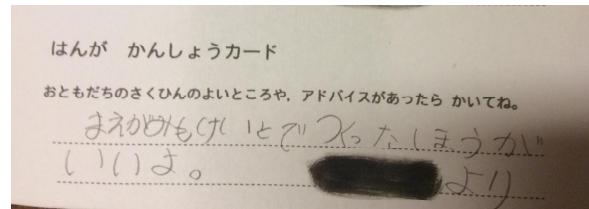
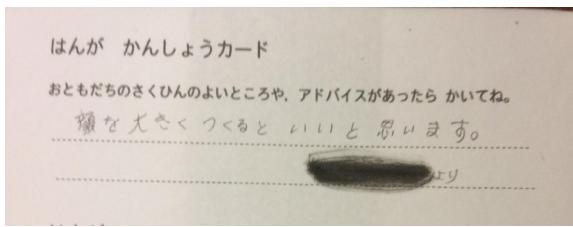
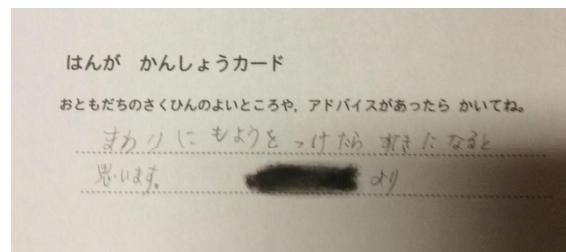
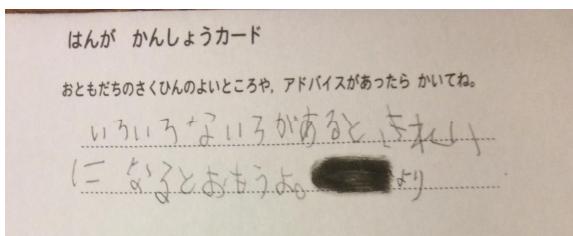


(版画スペース)



④生かす → 鑑賞の後に出てきた意見を参考に、修正をする。

自分や友達の作品を見て、感じたことをワークシートに記入する。



友達からのアドバイスで、たくさん刷ったり、色をカラフルにしたりした。



III 研究の成果と課題

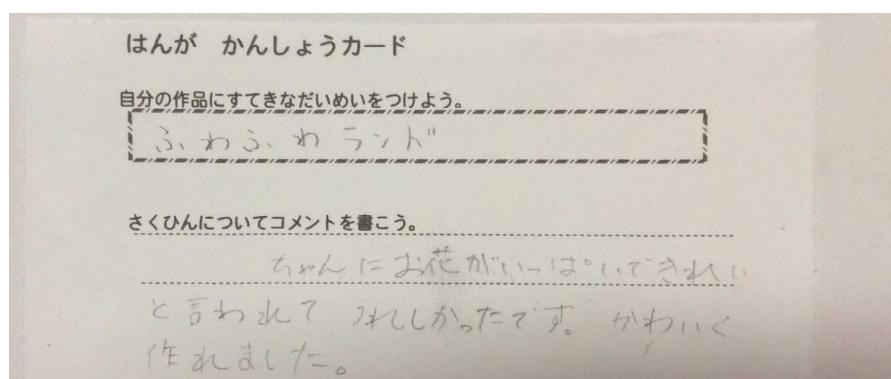
(成果)

今回導入部分として行った「こすりだし」の学習は、児童にとって初めての経験だったらしく、授業終了後にも「楽しい。」「もっとやりたい。」と言って、様々な場所で模様を写し出す姿が見られた。

また、紙の重ね貼りも、最初は難しそうだと言っていた子も、色画用紙でパート分けをしたことで、貼る順番が分かり、どの子も失敗しないで顔を作ることができていた。

場の設定では、刷った後、全員の作品を並べて鑑賞することで、自分が感じたことだけでなく、友達からのアドバイスも聞くことができた。そのことにより、自分の作品をより良いものにしたいという意欲がもてたのではないかと思う。友達のアドバイスが聞けて良かったという感想を、作品が仕上がった後にワークシートに記入していた児童もいた。

児童のワークシートから



(課題)

今回、初めての紙版画学習ということもあり、自分の顔作りだけで終わってしまい、児童の発想を十分に活かすことはできなかった。児童の思いをききながら、児童の発想を広げ、表現に活かす造形活動ができる工夫を考えていけるようにしたい。

また、はさみやローラーなど用具をうまく使いこなせず、表現する意欲を低下させてしまう場面が見られた。用具を使う技能を高めたり、補助する手立てもしっかりと考えたりする必要があると感じた。

今後も、児童が自分の思いを伝えたり、友達のアドバイスを聞いたりする場の設定や、効果的なワークシートを作成し、活用できるようにしたい。

参考文献 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省 平成20年8月
「平成29年度学校教育指導方針」 茨城県教育委員会 平成29年3月